

インターバンクの声（2017 年 11 月 13 日）

週末の外国為替市場でのドル円は、東京市場の引け後もロンドン、ニューヨーク市場の早い時間まで 113 円 30 銭から 50 銭の狭いレンジ内での取引を続けた。米国がベテランズ・デーの振替休日で薄商いだったこともあり、このまま静かな相場展開のまま引けるかとも思われた。しかし、米税制改革をめぐる先行き不透明感がドル売り材料になったままで、ミシガン大学消費者信頼感指数の市場予想を下回った発表直後には、113 円 20 銭台までドル売りが進んだ。ただ、この日は米長期金利の上昇がドル続落を防ぎ、ニューヨーク市場の終盤には 113 円 60 銭前後までドルが買い戻された。それでも足元の市場では、そろそろ買い持ちになっているドルを利益確定させる頃と考えている投資家も増えているようで、今週発表される米国のインフレ関連を中心とした経済指標の内容が悪い内容にでもなれば、続いてきたドル上昇傾向の流れが変わる可能性もある。週明けの東京市場でもう一段ドル買いが進むのか、株価動向とともに気になるところだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。